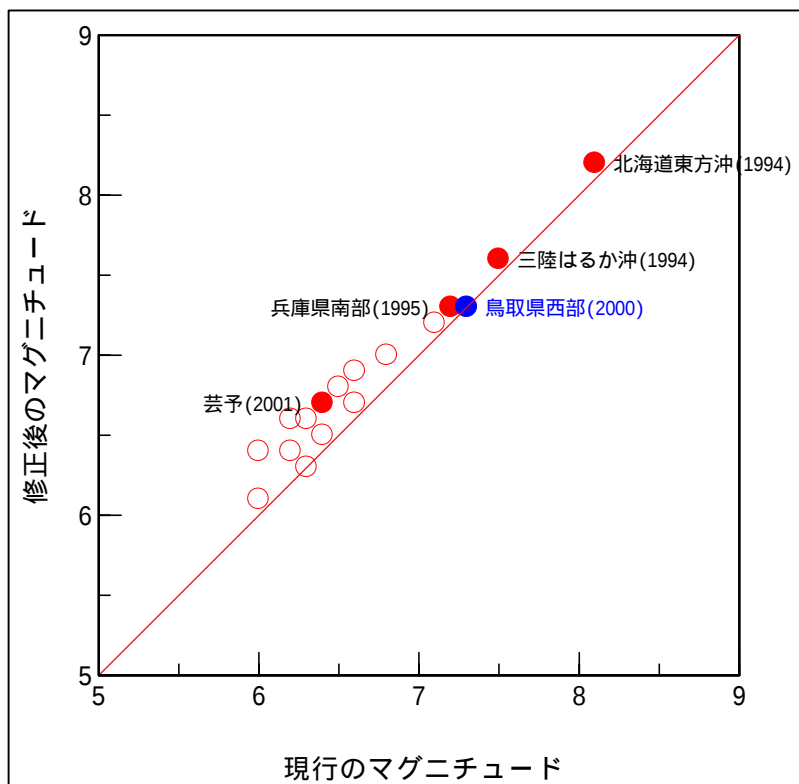


マグニチュードの変更について

気象庁はマグニチュードの算定を見直すことを発表しました（2001.4.23）。表1に見直し後のマグニチュード（M）を示します。図1は表1をグラフにしたものです。ほとんどの地震が修正後に大きくなっていることが分かります。なお、見直しをすることになった背景、新たな算定方法や課題についても書いてみたいのですが、力不足もあって書くことができません。気象庁のホームページなどで調べてみてください。

表1 見直しになった地震

地震名	発生年月日	現行M	修正後M
北海道東方沖	994 . 10 . 4	8.1	8.2
三陸はるか沖	12 . 28	7.5	7.6
岩手県沖	95 . 1 . 7	7.1	7.2
兵庫県南部	1 . 17	7.2	7.3
福島県東方沖	96 . 2 . 17	6.5	6.8
銚子付近	9 . 11	6.2	6.4
日向灘	10 . 19	6.6	6.9
日向灘	12 . 3	6.6	6.7
山口県北部	97 . 6 . 25	6.3	6.6
種子島近海	99 . 1 . 24	6.2	6.6
根室半島南東沖	000 . 1 . 28	6.8	7.0
銚子付近	6 . 3	6.0	6.1
新島・神津島近海	7 . 15	6.3	6.3
茨城県沖	7 . 21	6.0	6.4
三宅島近海	7 . 3	6.4	6.5
鳥取県西部	10 . 6	7.3	7.3
芸予	01 . 3 . 24	6.4	6.7



あとがき

- マグニチュードと震度は全く違うので注意しましょう。
- 人によりマグニチュードや震度の値から受ける揺れのイメージは異なると思います。最近では、震度情報が地震後すぐに発表され、知らず知らずのうちに震度判定の訓練をさせられているような気がします。ただし、震度は、以前は気象庁の専門家の体感あるいは被害調査から決められていましたが、現在は、地震計あるいは震度計から機械的に求められています。
- 最近の地震は、震度6でも被害が少ないような気がします。やはり、震度の算定に問題があるのではないのでしょうか。やはり、被害と相関がある震度でないといふ利用価値がないと思います。（紺野）